

ごあいさつ

平素より私ども鳥取銀行に対しまして格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。当行は1949年の創立以来、鳥取県に本店を置く唯一の地方銀行として地域経済の発展とともに成長し、今日の基盤を築き上げてまいりました。これも皆さまの温かいご支援のたまものと深く感謝しております。

このたび、2025年度中間決算の内容等について詳しくご紹介する「鳥取銀行2025年9月期中間期ディスクロージャー誌」を作成いたしました。ご高覧のうえ、当行へのご理解を一層深めていただければ幸いに存じます。

当行では2024年4月より鳥取銀行のパーパス“地域社会の未来を「創る」「守る」「支える」”を制定するとともに、中期経営計画「for the FUTURE ～未来に向けて～」に取組んでおります。「新たな地域価値の創造」「コンサルティング深化」「経営基盤の強化」「人的資本経営の実践」という4つの重点テーマに取組むことで、地域の明るい未来を切り拓いていきたいと考えています。

今後とも皆さまの信頼とご期待にお応えできるよう全役職員が一丸となって努力してまいりますので、一層のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2026年1月

取締役頭取 入江 到

鳥取銀行のパーパス

地域社会の未来を「創る」「守る」「支える」

私たち鳥取銀行が本店を置く鳥取県では、人口減少や少子高齢化が進んでいます。後継者不在率も高く、事業所数は年々減少しています。こうした環境の下で、地域が存続していくためには、未来を担う世代が安心して暮らせるまちを創ることや、雇用の場を守ることが必要です。私たちは、地域金融機関として、これまでの金融の枠組みを越えたサービスを提供するとともに、更なる地域の価値向上に取組むことで、持続可能な地域社会の未来を「創り、守り、支える存在」になりたいと思っています。

中期経営計画

for the FUTURE ～未来に向けて～

計画期間 2024年4月～2027年3月(3年間)

目指す姿 地域社会の発展を力強くリードするコンサルティングバンク

● 重点テーマ

2026年度の目指す姿 達成に向けたミッション



● 計数目標

| | | | |
|-----|------------|-----|-------------------|
| 収益性 | 経常利益20億円 | 効率性 | コアOHR80%台前半 |
| 健全性 | 自己資本比率8%程度 | 専門性 | 行内プロフェッショナル人財150人 |

会社概要(2025年9月30日現在)

| | |
|--------|---------------------------------|
| 本店所在地 | 鳥取市永楽温泉町171番地 |
| 前身銀行設立 | 1921年(大正10年)12月15日 |
| 創立 | 1949年(昭和24年)10月1日 |
| 資本金 | 90億円 |
| 店舗数 | 65カ店：県内53カ店、県外12カ店 (その他1事務所) |
| 従業員数 | 662人 |
| 総資産 | 1兆1,145億円 |
| 預金 | 1兆269億円 |
| 貸出金 | 8,874億円 |

目次

| | |
|----------------------------------|----|
| 連結情報 | 2 |
| 単体情報 | 12 |
| 中間財務諸表 | 13 |
| 損益の状況 | 17 |
| 経営効率 | 18 |
| 預金 | 19 |
| 融資 | 20 |
| 有価証券 | 22 |
| 時価情報 | 23 |
| デリバティブ取引 | 25 |
| 電子決済手段 | 26 |
| 暗号資産 | 26 |
| 資本・株式 | 27 |
| 自己資本の充実の状況等について | 28 |
| 中小企業の経営の改善及び地域の 活性化のための取組みの状況 | 42 |

■当行は、2024年9月中間期および2025年9月中間期の中間連結財務諸表ならびに中間財務諸表について、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき太陽有限責任監査法人の中間監査・監査証明を受けております。本ディスクロージャー誌の財務諸表は、上記の財務諸表に基づき、記載内容を一部追加・変更するとともに、様式を一部変更して作成しておりますが、本ディスクロージャー誌そのものについては監査を受けておりません。